

## 大阪空襲と疎開

匿名希望（当時、大阪府豊中市在住 8歳頃の話）

1945年（昭和20年）6月の大阪空襲で家が焼失。私は8歳、国民学校3年生。その後母の里、鳥取県米子市へ疎開。2年間、米子の国民学校に通学後、昭和23年に豊中へ帰ってきて、以後も豊中に住んでいます。

昭和18年頃から日本敗色濃い中、20年まで空襲警報が鳴ると、家へ逃げるように帰り、近くの防空壕で近所の大人の人と避難し、アメリカ機がとおり過ぎたら家に帰る生活。昭和20年6月の空襲時は、父は戦地、5歳の弟は米子に疎開、学校の教師をしていた母と二人で生活していたさなかの被災、心細い生活を続けることになりました。

疎開先の米子は、母の里が農家でしたので、食べ物は何とか工面できましたし、近くの国民学校（今の小学校のことだが当時は国民学校という）に通って、友人もでき、まあ楽しい生活をした後、父が復員してきたので、再び大阪豊中市に帰り借家住まい。食べ物も不足、父はヤミでコメを買い、警察に捕まり一晩拘留されたこともあり、結構不自由な生活をした記憶あり。

幸い家族4人が無事であったのは幸い。